

境内神社 塩竈神社
左 住吉神社
右 二社
件明治四十四年七月十
四日許可左年八月十五日
信樂所

高知縣土佐國高岡郡與津村

草稿

字馬場屋敷鎮座

郷社

八幡宮

一祭神

應神天皇、田心姫神、湯津姫神、市杵嶋

姫神、神功皇后、武内宿禰

一由緒

元慶二戌年月日未詳、勸清古來當郷

浦、惣鎮守ナリ、八幡宮由系記ニ明應年月一

條房家公當國波才郡中村尚在所、節

崇敬アリ、神鎮三十枚、歌仙三十枚、陣刀二腰

奉納アリ、又社殿地壹町八反寄附、可長

曾我部元親、檢地ノ節上リ地トナル、神鏡及

歌仙短冊、宝物兼棟札等、宝永四年六月十日

與津

高知縣

二五

四日地震、叶為怒海流失、陣刀二今ニ現

存ス、右歌仙三拾枚内、一首ナリトテ今ニ云

傳フ哥アリ、フキヨスルナシヤモテコシトサノ

ウミノオムロノハマノウメハナカヒ

○神社牒云ハケマンハラ、八幡一云正八幡大神宮、右勸清

東歷不相知、脇立左勢至右觀音、但古

東ヨリ有之尤宝永四災、大差ニ流失、享保

三戌年勸清云又云八幡本社古宮林、内東

ノ端ニ在之災、大差流失、廿向斗高キ所ハ

遷宮、又朱書ニ先年因主ヨリ社殿中

八石寄附之由、失履帳ニ有之元親地檢、

時被除、往昔一条公ヨリ、的馬三足、復者

百五十人、余出ル由云傳、其後地下ヨリ相

調外二十人余念佛歸ニ附リ八幡神
殿新宮、カキ先規ヨリ用エ八幡宮ヨリ
新宮四ツ村へ□進エ由右之通云傳年月
不知且宝物哥仙三十枚鏡三十面一条公
ヨリ御寄進貢、大菱没ルヨシ社床五代散
田無負社貳尺四面板葺、葺殿、二百二
内葺葺横殿二百二四百右同断、サヤ七尺
四面小粉葺、鳥居一ヶ所シヤ林臺、六又
余散田無負、東西七十百南北七十間海山
方支配地クルメ、鰯口一銘元禄才一寅年
六月石手水鉢一高一尺二寸横四尺石燈
燵一高三尺六寸臺、豈共神輿一三尺四
面社内寢物刀二腰景宗二尺三寸兼光長

高知縣

二尺四寸太刀一腰無銘長四尺三寸領主甲西
權六ト云傳イツ頃、譯不知但三腰共社帳
出有之外古寄附之神田有之「室永六乙丑
八月十三日八幡宮再興、棟札アリ

○治謀記事云与津浦ニ八幡ノ宮有リ每
歳八月十五日ニ祭札アリ宮ハ海辺ヨ
リ二三里モ手前ニ有神輿ヲ御旅へ昇
ラ行ニ旗ニ流神輿ノ先へタラ御旅ト
テ神職祝詞ヲヨミ神系ヲ奏スルヲ大
カタ半時許カ、ルホドノ事ナリ然ル
ニ常ハ与津崎近クシテ浪ツヨクテ物
ノ音モ周へツカヌ事ナルニ右ノ神系
ノ内ハ都テ浪靜ナル事前々ヨリタメ

大正七年八月十日 朱書
通り許可

境内ニ社ヲ本社ニ
祭行明治四十四年七
月十四日許可 在年八月
十五日 祭行

シケルニ、イッモ如此ナルヨシ村越氏
子津浦ノ役ニテ先年祭ノ節其ノ場へ
ツメマリアタリ見タルニ其ノ日ハ、イナサ
ゲト云日知ニテ常ヨリモ浪ワヨリ後
ニハ大雨降大浪ニナリヌレモ神樂ノ
内ハ其辺スベテ浪氣モナク湍ケルト
也神職トドモ右ニ通ニイッモ神系ノ
内ハシヅカナルヨシ語リケルト也

一祭日 六月十五日 九月廿五日 十一月十五日

一本殿 桁行二弓一尺梁三二弓 枅葺

一拜殿 桁行四間 梁三二間 瓦葺

一舞殿 桁行四間 梁二間 瓦葺

高知縣

但拜殿舞殿ハ一棟造

一本造鳥居 一基

一本造玉垣 拵八弓五尺

一齋院殿 桁行二弓梁間三間半 草葺

一神馬屋 桁行三間三尺梁一周一尺

草葺

一境内 或町或及六畝一步

官有地亦一程

一境内神社二社

塩竈神社

祭神 味鋸高彦根命

由緒 勸清年月縁起沿革等未詳

祭日 九月五日 九月廿九日

社殿 桁行四尺梁間二尺五寸

草葺

住吉神社

祭神 三筒男神

由緒 勸清年月縁起沿革等未詳

祭日 九月五日 九月廿九日

社殿 桁行四尺梁間二尺五寸

草葺

一氏子 三百四十五戸

一祠官 藤沢武重

一祠掌 北村早苗

一匠縣丁 拾八里三拾壹丁三拾八戸